

## 令和7年度上市町総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録

日 時 令和7年10月10日（金）午後1時30分から午後4時30分まで

場 所 上市町役場 4階大ホール

出席者 井上委員、小柴委員、瀬川委員、高島委員、中田委員、野越委員、平井委員、村上正委員、森委員、安井委員（代理：二俣氏）、山崎委員、湯上委員、横山正一委員（代理：山崎氏）、横山正行委員、吉田委員

欠席者 岡崎委員、田中委員、日野委員、三輪委員、村上達委員

事務局 小竹副町長、牧田教育長、小池総務課長、松本企画課長、黒田財務課長、  
轡田町民課長、黒田福祉課長、碓井産業課長、酒井建設課長、柳瀬会計管理者、  
細川議会事務局長、廣田かみいち総合病院事務局長、平井教育委員会事務局長  
【庶務】企画課企画班：青木課長代理、嘉藤課長代理  
【委託先事業者】地域創生 Co デザイン研究所、NTT 西日本

傍聴者 1名（報道関係者） 富山新聞

- 次 第
- 1 開会
  - 2 あいさつ（上市町副町長 小竹 敏弘）
  - 3 審議
    - (1) 第8次総合計画（後期基本計画）策定の進捗状況について
    - (2) 人口ビジョン改訂案について
    - (3) 第8次総合計画及び第3期総合戦略骨子（案）について
  - 4 ワークショップ  
個別施策についての改善案や新規施策アイデアについての意見交換
  - 5 その他
  - 6 閉会

### 事前配付資料

- ・委員（出席者）名簿 ・座席表
- ・資料1 第8次総合計画（後期基本計画）策定の進捗状況について
- ・資料2 上市町人口ビジョン（改訂案）
- ・資料3 第8次総合計画及び第3期総合戦略骨子（案）について
- ・資料3（別添） 骨子案
- ・資料4-1 ワークショップの進め方
- ・資料4-2 既存個別施策一覧

## 議事等

### 1 開会、あいさつ

審議委員 15 名が出席した。司会者の企画課長が開会を宣言した。

副町長があいさつを述べ、今年度 2 回目である本日の審議会は人口ビジョン改定案と総合計画の骨子案をお示しして審議いただくことと、第 1 回審議会にてご意見をいただいたワークショップ形式での話し合いを委員に実施したアンケートの結果に基づき行うことを説明した。加えて、審議会は委員の所管を代表して意見をいただくことが趣旨であるが、今回は計画の骨子案を示し、後に施策の肉付けを行うタイミングであるため、ワークショップでの話し合いからのご意見も踏まえて計画素案を作成し、次回の審議会で提示するのでご審議いただければと依頼した。

司会者が、審議会条例により会長が議長となるため、議事の進行を山崎会長にお願いした。

### 2 各審議事項について

議長は、審議事項毎に事務局に説明を求め、事務局は配付資料に基づき説明した。議長は、各審議事項毎に質疑がないか委員に確認したところ、審議事項 2 及び審議事項 3 について、次の質疑があった。

#### (1) 審議事項 2 人口ビジョン改訂案について

##### <質疑応答>

**委員** 参考までですが、県の将来人口の見通しは本年見直しており、県としては人口の目標値という考え方をやめて、見通しを 3 パターン示すだけにとどめています。希望出生率 1.9 の前回パターンが資料になっていましたが、誤解を招く可能性もあるので、県も前回のパターンという注釈を何か入れていただければ助かります。

次に、最後に方向性、ある意味、対策のようなものを 5 点にまとめてあったと思いますが、県も国も人口が減っていく中で、それを認めて対応しようという観点から色々考えていますが、そういう意味では今の人口見通しでも、生産年齢人口が 5 年で約 1 割減少する見込みになっています。その点への対応というのは、どのように反映されているのかを教えてください。

**事務局** 1 点目のご指摘のとおりだと思いますので、誤解が生じないように、現在の県の推計ではないということをはっきり明記させていただきたいと思います。

2 点目の生産年齢人口の減少につきましては、正直なところ、これを完全にリカバーすることは全国どこでもなかなか難しいことではないかと思っています。そのような中で、先程申し上げたような縮充という考え方のもと、例えば効率的な働き方であったり、時間や場所を選ばない働き方だったりという形で、なるべく生産年齢人口と言われてる方々が生き生きと働ける社会を作っていくことが目指すべき方向ではないかと考えています。人口ビジョンでは

あくまで方向性というまとめ方になっていますので、具体の取り組みは今後、後期基本計画の中で施策をうたっていければと考えています。

**委員** 具体的な内容は今後ということは分かりましたので、ただやはりインフラや、おそらく医療介護なども担う人が少なくなるので、そのような対策というのはぜひ、具体策を示していただきたいと思っています。

## (2) 審議事項 2 第 8 次総合計画及び第 3 期総合戦略骨子（案）について

### <質疑応答>

**委員** にぎわう上市の重点施策内容変更後で、「イベントを、特に頻度よりも密度を重視して開催」と書かれた意図を教えてください。

**事務局** 現行として上市町ではたくさんのイベントを実施していて、非常に好評を博していたり住民の方からご好評いただいていると思っていますし、前回の審議会でも同様の声をたくさんいただいたと認識しています。一方で、イベントをたくさん行っているものの、例えば統一性や周知が図られているのかという点では、もう少し発展させる余地があるのではないかと考えており、イベントももちろんたくさんやるという話でいいのかというところもあります。質の高いものの頻度など、質が大事であるというところを考えてこのような表現をさせていただきました。

今回、住民の皆様の認知向上ということもあり、シティープロモーションという点で、今後どのように取り組んでいくかということや住民の方にご理解いただくか、どう発信していくかが非常に大事だと思っておりますので、そこをセットでイベントの打ち出し方や、量や頻度も議論した上で、今回の基本計画の中で反映できればと考えています。

密度という点については、中高生のワークショップの中でも、上市町の中で活気を感じる場面ということを求められているというような意見が出ていました。その活気という点の 1 つに、例えば上市町で常駐的にそのような場を作っていくというのは現実なかなか難しい面があると思いますが、例えばそれがイベントという一時的なものであったとしても、子ども自身がそこに参加意識を持っていて、かつ、例えば外部からもそのイベントに人がたくさん来ていて、そのポイント毎でも町が盛り上がっていると感じることが、この町に住んでいてよかったと感じることに繋がるということや、子どもたちの自己肯定感に繋がったりということを狙って表現させていただいているところです。

他に質疑がないか委員に確認したところ、ワークショップにて意見交換したい旨の意見があったため、議長は事務局に司会を戻し、ワークショップの進行を任せました。

### 3 ワークショップ

出席した委員が、つながる・にぎわう・ささえあうの3グループに分かれ、現行計画の施策内容一覧を参考に改善点や新規施策のアイデアについて話し合った。各グループにファシリテーターとして、計画策定委託先事業者が1名加わった。グループで出し合った意見について、各グループの代表者が発表した。

#### (1) つながるグループ

メンバーと公民館、保育所、スポーツ、健康、つながりについて話しました。

公民館は特に社会教育の拠点となり、また防災、地域の核となる大事な施設です。人口減少時代とはいえ、地域にそういった核となる施設、場所があるということは、人や心のよりどころにもなりますし、大事な防災の拠点なので、絶対なくしてはならない。ただ、しっかり有効に活用していくことが大事だというご意見でした。ただ、現代では、皆さん平日は働いていますし、土日は自分の余暇で忙しいため、なかなか公民館で集まって何かをしようという機会が減っており、公民館としては、土日に行事を開催してみたり、地域の宝である人材を発掘してその方に講師をしていただく、公民館講座を開催したりして工夫して、地域の方がより利用しやすい公民館を作っていきたいという意見が印象に残りました。また、いろんな地域の役割の方が集う場所でもあり、その方たちが意見交換をして、よりよい地域社会づくりにつながる大事な場所ですので、皆さんも公民館を使っていたきたいというお話でした。公民館は地域社会教育拠点であり、図書館の役割も担っているため、本を読む機会を作るためにも図書館、図書室みたいなものをしっかり置きたいという意見も印象的でした。

保育所の方のお話としてはやはり子育て支援は、上市は充実していますが、保育所では、給食費を少し手出ししている部分があるそうなので、小中の給食が無償ならば保育所も給食無償がいいなという、保護者のご意見があると聞きました。また昨今、特性などで気になるお子さんが増えた印象だということで、少子化といえども、保育士の人材不足は深刻だそうです。ですから、そういった意味でも、人材の補填もしていただけるといいかなと思いました。

スポーツ協会では、スポーツの力でまちが元気になるということを念頭に置いて活動しておられるとのこと。スポーツは元気の源、色んな行動がやはり私たちも元気になります。とりわけ上市町では、カヌーが非常に盛んです。町内には有名な選手もいて、先日も国民スポーツ大会で大活躍しておられました。そのような活躍している選手の背中を見て、小中高生が育っているような縦の繋がりもできているそうです。ただ部活動が、地域クラブでの活動になりました。町だけで活躍するという考え方ではなく、市町村、県内みんなで連携して、選手を育て、みんなで活躍していくというつながりを作っていくことも大事じゃないかという意見もありました。将来、この少子化の時代には、上市町だけに完結せず、各種団体と連携していくことが大切というご意見が印象に残りました。

教育の分野では、読書の大切さについて教えていただきました。読書離れ、書籍離れはやはり深刻です。より本に触れる機会として、電子図書なども導入していくこと、移動図書などのシステムを作っていくことも大事なのではないかというご指摘でした。読み聞かせというと小さな子供のものに、思われがちですが、そうではなく、誰に対しても大事なことなのですが、高齢者に対しても大事かなというふうに言われておりますので、しっかり、とらえていければいいかなと思いました。また今、働き方改革や部活動地域移行のおかげで学校の先生の時間の使い方を

色々工夫できるのではないかというご意見があり、そこを、教職員の資質の向上に充てるようにしていくのも一つの選択肢かなというご意見がありました。また、専門職、スクールカウンセラーやソーシャルワーカー、地域人材の活用というのも、つながり作りでしっかり確保する、上市町の子どもたちの心豊かな成長のために、それら専門職をしっかり活用していくこと、つながりを作っていくことが大事だというご指摘でした。

計画には男女共同参画が大分色々記載されているので、特に異論はないのですが、ただ、本当に、男女平等やジェンダーギャップの解消という、やはり一人一人の、意識改革になってきますので、一日、二日で変わるものではないため継続して伝え続ける、つながりを作って、より多くの人に、訴え続けていくことが大事かなということになります。とにかくやはりつながる、連携する、協力するということが大事なのではないかという意見でした。

## (2) にぎわうグループ

今、人口減少や廃校の問題など地域の課題が非常に進んでいます。私達はそれをマイナスにとらえるのではなく、新しいチャンスとして捉えました。その中心として、廃校の利活用ということで、使われなくなった学校を、ただの建物として残すのではなく、人が集まり、そして学び、働き食べる場所に再生していきたいと考えました。そこにはワーケーションスペースがあったり、子ども食堂、農業、林業体験ができる場所を作ればいいのではないかと。例えば、子どもたちが、種をまいて育てた野菜を収穫したり、それを自分達の手で料理して食べるなど。地域の高齢者だったり、親世代、そして移住者が交わって、食と学びが循環する拠点を作れたら良いのではという話になりました。

そしてさらに、そこにデジタルの力をかけ合わせます。私達はこの活動を、デジタル観光ツアーとして、全国に発信していけたら良いのではないかと話しました。例えば、ドローンの映像を使ったり、360度カメラを使って、上市町の山は自然が非常に豊富で恵まれていますので、上市町の山や川だったり、背後のリロケーション風景だったり子ども食堂活動などをオンラインでリアルタイムで、体験できるようにしたら良いのではないかという話になりました。実際に上市町、現地に来る前に、デジタルで体感してもらって、実際に行ってみたい、そしてこの町に関わる体制を持ってもらえるように、デジタル観光をきっかけに、関係人口から定住人口へとつなげていければ良いのではないかと。この取り組みを通じて、廃校は終わりではなく地域の新しい始まりになるのではないかと。自然と人がつながって食と学びが循環し、そこにデジタルの発信力が加わることで、この上市町が全国に、そして、人が集まるまちへと進化していけるのではないかと考えました。

## (3) ささえあうグループ

私達のチームは企業、民生委員、社会福祉協議会、県の方がおられ、多彩な点からご意見をいただきました。テーマは、福祉健康、生活安全、行財政運営という3つの分野で、これは良いよねとか、こういうふうにもっとしたら良いのではないかというような意見がありました。それぞれの立場から、非常に貴重な意見がいただけたのではと思います。

まずはやはり防災の意識、意見が非常に多く、高齢者や障害者に対してどのような働きかけができるのか、学校として、高校生をうまく活用できないかというような形の意見をいただきました。2つ目は、地域づくりで様々な取り組みをしておられ、その中で、企業が活躍し、eスポー

ツを取り入れているという話や、中高生は割と職場との連携を図るなどしていますが、小学生のうちから地域の企業や事業所見学などを通して町を知ることや、民生委員の仕事内容などを学ぶ体験をすることで、地域の福祉に繋がっていくのではないかという意見もいただいています。

次に、かみいち総合病院を応援するというプロジェクトに非常に反応がありまして、これによって病院に限らず、頑張っている企業、学校、団体を応援するという姿勢が、まさに採用につながっているのではないかというようなお話もいただきました。

最後に、中高生の力の活用について、災害が起きると中高生が活躍するというニュースはよく見ますが、起きる前に、防ぐために中高生の力、具体的な力の確約ができれば、お互いに良いのではないかと、高校生も役に立てたと実感し、町の方にも認めていただけるような場面が増えていくことが良いなというような話もありました。

そのほか、世代を超えた、またマイノリティの方を含めたささえあい、高校生など町外居住目線での面的な広がりのあるささえあいなど、世代や立場、町内外でとどまらないささえあいといったたくさんの意見がありました。

#### 4 その他、閉会

事務局は、次回の審議会を11月26日に予定していることをお知らせし、日程調整への配慮をお願いした。

司会者は、以上をもって次第を終了した旨を述べ、閉会を宣言した。